

海洋越境移動する漂着ゴミによる海岸汚染

防衛大学校 正会員 山口 晴幸

20 世紀の文明社会を象徴した大量生産・廃棄型社会の顛末の一端が、大量漂着ゴミとなって海岸線を襲い、今、我が国の浜辺は激しく漂着ゴミで汚染されている。特に、我々が廃棄したゴミに加え中国・台湾・韓国・ロシアなどの近隣諸国からのゴミが大量に漂着している実態が認められ、国内外からの大量漂着ゴミで海岸線はまさに巨大ゴミ箱と化し、全国的に深刻な社会問題となっている実情を、多くの海岸での漂着ゴミの実態分析から社会的に強く警鐘を鳴らしてきた。

1997 年から開始継続している 5 年間にわたる北海道宗谷岬から沖縄県与那国島に至る全国主要海岸延べ 718 箇所て数え上げた 92 万個以上に及ぶ漂着ゴミの国籍・種類等に関する調査結果をまとめ、2002 年 6 月には「ひげ先生の手簡 漂着ゴミ～海岸線の今を追って」と題する書籍を出版(文芸社刊)する機会を得た(図 1)。漂着ゴミの構成タイプには、我が国近海の海流と密接な関連があり、海岸域的特長のあることを明らかにしている。黒潮海流ルート近傍の南西諸島では中国・台湾系ゴミが、日本海側対馬海流ルート沿いでは韓国系ゴミが外国製漂着ゴミの圧倒的な量を占め、早急な防止処理対策を確立するためにも発生供給源と漂流漂着ルート解明が不可欠な課題である。

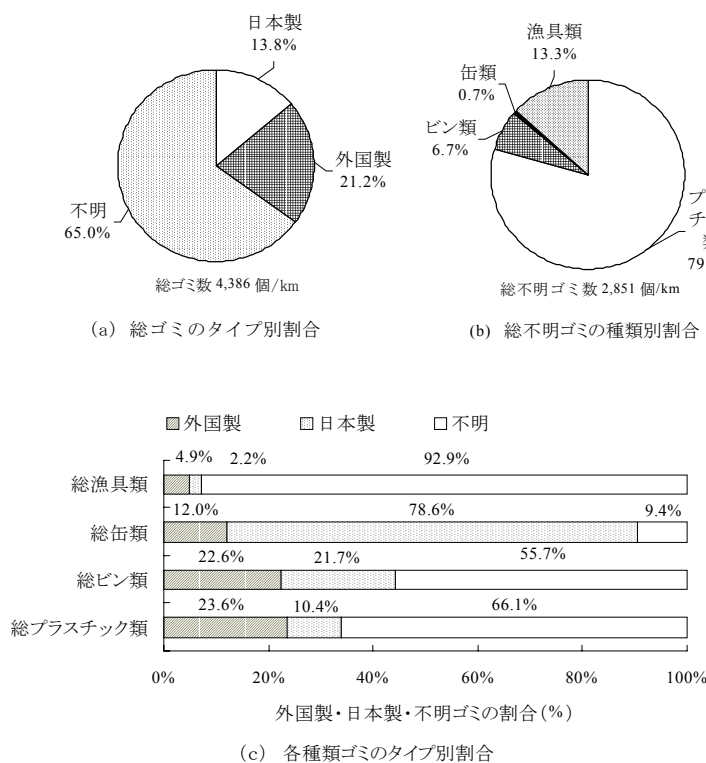


図 2 今までの調査で数えた日本列島での漂着ゴミ数の構成・タイプ

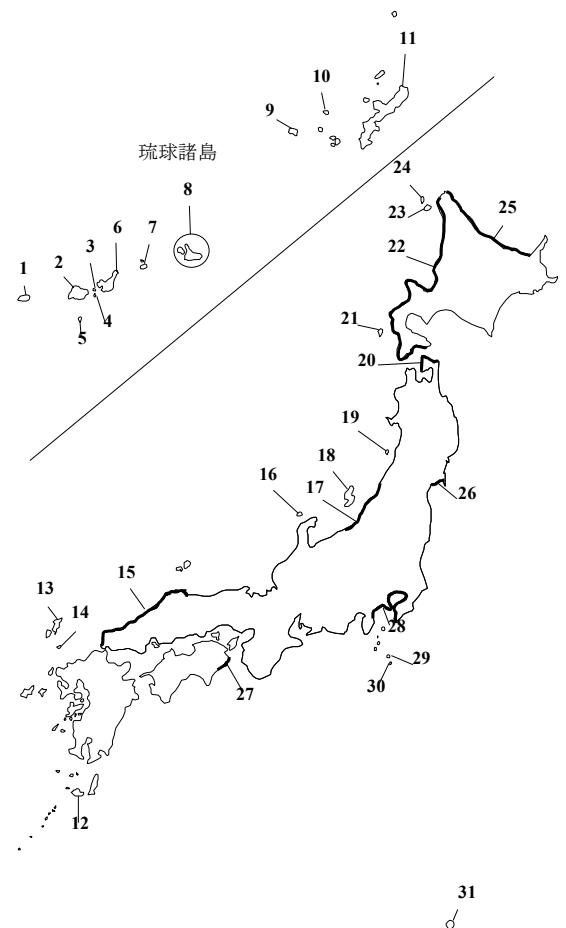


図 1 本調査での日本列島における調査海岸域

日本列島での全調査海岸の結果を総計すると(図 2)、平均的には 1km 当りの漂着ゴミ数は 4386 個となり、その内訳は日本製ゴミが 13.8%、外国製ゴミが 21.2%、不明ゴミが 65.0%であった。海岸に漂着しているゴミの半数以上は判別不能な不明ゴミで、その不明ゴミのほぼ 80%は、現代文明を象徴するプラスチック類ゴミが占めている。不明ゴミとなる主要な原因は、海岸に漂

そこでこのような実態や指摘を考慮し、今後、日本製ゴミの遠距離漂流に起因する外国海岸への漂着実態を明らかにすることが重要となることから、特に、太平洋上の外国の島々や中国・台湾・韓国・ロシアなどの近隣諸国の海岸調査を試みることが要求される。

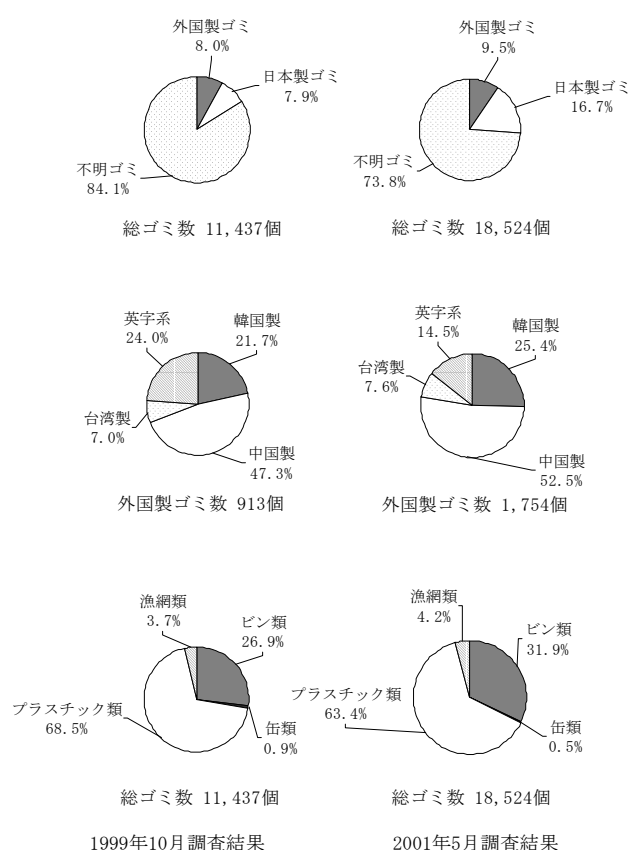


図4 小笠原諸島硫黄島での1999年と2001年の調査結果の比較